

自動車用材料の特集号発刊に際して

Remarks on Special Issue on Materials for Automotive Use



技術開発企画部 部長

山崎 一正 Kazumasa YAMAZAKI

自動車産業は今や産業界の頂点に立っています。食物連鎖の頂点に人間が立っているように、自動車もあらゆる技術の連鎖の頂点にいます。ひるがえって考えてみますと、自動車は非常に多くの技術に支えられているとも言えます。素材、加工、制御、組み立て、それらを作り出すための設備、保全、品質管理、物流・・・等々、あらゆる技術が適用されています。私どもの鉄鋼もその中の一つであり、自動車用素材の73%を占め、その比率はやや減少したとは言え、その地位は現在もまた将来にわたってもゆるぎないものと考えています。しかしながら、その種類、貢献の仕方は一昔前とは大幅に変化しております。

素材メーカーは単に、素材を提供するだけでなく、素材を最も有効に使う方法を提示するとともに、お客様とともにその使い方を工夫する試みに挑戦してきました。そして、多くの実績を生み出すまでに至っています。私どもは“ユーザーイン”という言葉で表されるような単に顧客のニーズをつかむだけではなく、さらに進んで、むしろ“CSレゾナンス(カスタマー・

サプライヤー・レゾナンス[共鳴・共振])”とも表現したら良いような、お客様とともにお互いの力を合わせて、さらにそれを高めて行く活動を展開しています。新日本製鐵グループは、素材を提供する企業ではありますが、素材を製造するためのあらゆる技術を保有しております。設備・保全技術、計測・制御技術、生産システム、分析・解析技術・・・等々、高品質・多種・多量の素材を製造するために多くの技術を発展させてきました。また、素材も、単に鉄鋼にとどまらず、アルミニウム、チタン、セラミックス、炭素繊維など多岐に亘って提供しています。新日本製鐵グループでは、このような総合力を有していると自負しております。これらは、まだまだ自動車産業に活かせる余地があるのではないかと考えております。この総合力を、自動車メーカーあるいは自動車を支える多くのメーカーの方々とともに共鳴発展させることによって、新たな進歩を遂げていきたいと考えております。お互いの力を合わせてこれをさらに高めることは、日本全体の発展にもつながると考えています。

以上のように、お客様とともに新しい技術の発展を期していますが、もちろん素材製造の分野におきましても、常にブレークスルーする技術の追求の手を緩めず、また高品質の素材を安定して供給するための努力は怠らない所存であります。

本特集号は、以上のような状況の下、私どもが取り組んできた内容の一端を紹介しています。皆様から今まで以上のご指導をいただけることになれば幸いと存じます。また、日頃のご愛顧にあらためて感謝申し上げる次第です。